

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1298800077		
法人名	株式会社ケアサービス・まきの実		
事業所名	グループホームやつかガーデン		
所在地	千葉県南房総市富浦町深名656-1		
自己評価作成日	平成26年2月24日	評価結果市町村受理日	平成26年5月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成26年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>やつかガーデンでは認知症があっても「その人らしく」過ごせ居心地が良いホームを目指しています。変化する利用者様に合わせ、どうすれば「居心地」がよくなるか職員の気付きを大切に、創意工夫を業務に取り組み職員も一緒に成長できるようにしています。職員にとっても安心して力を発揮できるように働きやすい環境作りをしていて自立型の人材を育成しサポートしあえる充実した職場環境を目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>富浦インターにほど近く、南房総の豊かな自然にも囲まれた地域にあり、開設4年目を迎えた2ユニットのグループホームである。スウェーデンの施設を参考にした木造平屋のホームは天井が高く明るく広々とした作りで、デイサービスも併設されている。「利用者様の個性や価値観、生活を尊重し、寄り添う介護」を目標として介護に取組み、家族からのアンケートでも満足度は高い。若き管理者は働きやすい職場づくりを目指し、「何でも話し合える良い関係づくり」「職員の自立・自発の気持ちを育てる」を職員と共有して取り組んでおり、定着率が高く、介護に対する情熱を育んでいる。職員はグループ内のネットワークで結ばれた介護・医療の記録ソフト「ちようじゅ」をうまく活用して、リアルタイムで介護情報を共有化し、医療とも連携して利用者一人ひとりに応じた思いやりのある介護に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社としての「理念」「目標」「信条」が掲げられて更に事業所としての目標をたてています。普段の業務の中で、目標に添った業務ができるように話し合いを多く持っています。	会社理念、および事業所独自目標は事務所内に掲示している。毎月開催のミーティングや日常業務の中で「どうあるべきか、職員が自立して、判断して、いかに行動すべきか」を確認して理解を深めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度も地域の祭礼時には地区の青年会によるお神輿が練り歩きました。今年は家族も呼び一緒に楽しんだ。クリスマスや節分等の行事に地域のボランティアを呼び積極的に交流を図っています。	地域には自治会はないが、世話役の区長と3人の民生委員に相談している。八坂神社のお神輿の来所、散歩時のあいさつやホーム行事への近隣住民の参加もある。台風増水時には近くの住民が心配して立ち寄りてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場にて、認知症ケアの実践を紹介している。新たな治療薬や看取りの話し等、協議を重ねた。秋祭りは地域の民生委員や近隣の住民も呼び実施した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は3回の実施予定。回数は少ないが、前回の開催時に定期開催に向けて、日程の設定をしたため、今後は2ヶ月に1回程度実施できるよう	定期開催に努力し、区長、民生委員3人、家族、当ホーム及び併設デイサービスの2人のメンバーで年3回実施した。事業所課題や認知症の説明をするなどホーム運営と介護に対する理解を深めている。	定期開催に努力しておられるので、今後は市や、地域包括支援センター職員など等の行政関係者の参加呼びかけを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から密に連絡を取っているとはいえないが必要時には取り合い対応している。	市の関係部門とはいつでも相談する関係が出来ている。市と防災福祉避難所協定を結び、災害時の緊急受入準備は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全を守る為、一時的にやむおえない場合は実施する事も検討するが、通常は拘束をしない。玄関含めた、施錠については、離設してしまう方もいるので、場合によって一時的に施錠しているが、現在は施錠していない。	拘束せず見守る介護で対応する方針であるが、柵等一時的に必要な場合は家族の同意を得ることになっている。併設のデイサービスとは自由に交流でき、玄関は夜間のみ施錠としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で過度にストレスがかからないように、職員の心身面でのフォローをしている。職場の人間関係を重んじ、何でも言いやすい関係作りに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会をもっていない。実際に成年後見制度を利用している利用者様も3名いて、今後の研修の課題となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要要項説明書と一緒に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見、要望は日頃からのコミュニケーションから聞き、家族等の面会時にもまた意見、要望を聞くことがある。ご家族とも良い関係を作る事に留意し日々、話しやすい雰囲気作りを心がけている。電話連絡を密にとるようにしている。	職員と家族の良い関係づくりに努力している。利用者の要望は日常介護時、家族や後見人からは来所時に聞いている。来所が少ない家族とは希望時間に合わせて電話で確認し、介護に反映させている。	家族は利用者の日常生活に大変関心を持っており、家族に対するお知らせの方法について、引き続き検討したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ミーティングがあり。その際意見や提案を聞く機会を設けており、反映させている。日常的に職員の考える力をつける為に、トップダウンの考えではなく、現場中心に考え実践することで、やりがいや質の向上を目指している	管理者は日常業務、月例ミーティング、年2回の人事考課面談等を通じ、職員の提案、要望を確認している。強制ではなく自立、自発の意思を尊重し何でも相談出来る職場づくりに取組み、職員の定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の考課面接がある。本人と話し合い、現在の評価次回の目標へと繋げる仕組みがある。評価によって昇給やボーナスの支給額を増減している。各スタッフには評価の内容を直接見せることで、課題や評価を明確にして伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ内に研修委員会が設置されている。研修委員会以外の研修も盛んにあり呼びかけを実施している。千葉県福祉協議会の実践者研修・管理者研修も積極的に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会、研修等で交流を行っている。他にも社内回覧板(ホットビズ)があり活発にグループ間で相談している。月一回グループ内で運営会議があり、その後管理者会議を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常からのコミュニケーションより信頼関係を築き、不安や要望について聞くよう努めている。 隣に座りゆっくりと一緒に過ごす事を大切にしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、要望について耳を傾け、問題解決、関係作りに努めている。 併設されているデイホームやつかの利用者様が入居する機会が多く、馴染みの事業所で入所サービスを受けれる安心感があると考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族に必要な事は聞き、言い出しにくい事などは支援している中で見極め、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今年度は秋祭りに家族の参加をお願いし一緒に過ごして頂く。その際家族会を開いている。 4月にはご家族に声を掛けて、やつかでさくらをみる集いを行う予定。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の介護の軽減も大切にしているが、困っている事は言い方に注意しつつ今後の対応策も交えて伝えるようにしている。共通理解を深める事で、ケアの良いアイデアがでる事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブに出る機会を設けている。 友人が来所することが多くある。 来所するご友人もお客様として対応する。	知り合いの方や、元教師の方には教え子の来訪がある。近隣へのドライブなど、慣れ親しんだ風景を見に行くなどしている。70年来の趣味の将棋をプレステで行えるよう、操作方法の習得を支援して楽しんで頂いている利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間にも関わりを持つよう努めている。席の検討等頻繁に行われる。貼り絵や雑巾作りなど、利用者間で一緒に楽しめる活動も実施している。 他利用者様との関係がうまくいかない方も職員が付き添い関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了するケースは少ないが、他施設への移動をする方にはサマリー等で情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活が支援出来るよう努めている。 担当者会議を実施して、利用者様の真のニーズを検討し応えるように努力している。 職員の気付きと工夫が出来る環境づくりに留意しています。	併設のデイサービスから移行した方も多く、一人ひとりが毎日楽しく笑いながら過ごして頂けるよう努めている。日頃から利用者の感情を大切に、本人に寄り添い、一対一で話す機会を多く設けよく耳を傾けるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報は記録システムのフェイスシートに入力し、日々更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常からのコミュニケーション、行動等により現状の把握に努めている。その為、行動記録や心身の状態など細かく記録に残すよう努めている。 また、利用者様の状況は常に変化するので対応も変化しなければいけない		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では担当者会議を開催している。モニタリングも居室担当とケアマネージャーと一緒にやっている。また、日々の情報共有や検討・実践が頻回に実施されている。	居室担当制を採っている。家族には来訪時や電話で希望等を聴いている。それらと日々の記録を基に、職員間で意見を出し合いモニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録等で常に記録を取り、申し送りや会議で情報共有をしている。提案されたケアについて失敗を恐れずに行う。その結果の評価をしている。 スタッフそれぞれが考えるケアを実践していくように目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で考えるケアを実施している。認知症をもち変化し続ける利用者様に対して、知り続ける探り続ける事を考えている。 管理者も含め一緒に悩み探り試し続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	四季を感じながら散歩を一緒にする。行事の際にボランティアを呼び地域交流にも勤めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診察を月に2度実施している。普段の様子・変化を訪問診察時に主治医に報告して適切な医療を受けられるように支援している。	月2回の主治医(法人理事長)の往診があり、同行の看護師からも利用者の体調管理に関する適切な助言を得ている。希望により随時歯科医訪問もあり、利用者はホームで義歯やブリッジ等の治療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療上の問題は職場内の看護職員に現状を相談し、適切な支援が出来るよう努めている。事業所外の看護師にも変化があった際の状態報告は行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院はグループ内の赤門整形外科内科が多い。病院関係者との情報交換をサマリー等で情報提供しあっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について事業所でできる事を説明し可能な限りの支援を行っている。看取りに関しては最初からご家族に話し合い意向を確認している。	契約時に看取りについて話している。重度化した時に改めて、早い段階から説明し意向を確認している。昨年お一人の方をお見送りして家族から感謝の言葉が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応表にしたがって対応している。体調が変化した際は、人員の薄い夜間では不安がある為、日中のうちに医療職と連携して対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時緊急時対応にしたがって対応している。定期的に避難訓練を実施している。自事業所だけではなくグループ内の連携も訓練している。南房総市内の老人ホームで協定を結び協力体制を築いている。	年2回以上の自主避難訓練を法人災害対策委員会のマニュアルに沿って実施した。消防署指導の訓練は実施されていないが、今年度は南房総市内の老人ホームで防災福祉避難所協定を結び協力体制を築いている。	専門的見地からの防災対策や避難訓練について消防署へ相談したり、訓練時には地域の方の協力、参加も得られるような企画をご検討願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方だと言う気持ちを常にもち、声掛けの内容について考えながら対応している。グループ内に接遇委員会があり、他事業所とも情報・気付きを共有している。	名前は～さん付けで、あだ名は言わない等言葉使いや声掛けに注意している。トイレや入浴時などプライバシーや羞恥心に配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な制限を設けず、自己決定出来るような声掛けをしている。自由な環境づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いのないよう、できるだけ利用者ペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容の支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者様が同じスペースで食事を摂り、会話をもつようにしている。食器の片づけが出来る方とは一緒に行っている。	摂食介助やミキサー食など重度の方も増えてきたが出来る方は下膳等片付けをしている。退院時胃ろう造設を勧められた方に「口から食べる」支援に拘り、ミキサー食の内容を説明しながら一匙から始めて体力回復が顕著な方も見られる。	胃ろうでなく「口から食べて頂く」ことに管理者を始め全職員が取り組み、利用者の体力回復および維持を支援している。一匙一匙の真摯な対応に拍手を送りたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	以前は夏・冬と脱水症がおおくあった。記録システムの「ちょうじゅ」をもちいいて、情報共有がしっかりできる体制がある。食事、水分量の記録を取り、必要量が確保出来るよう、好みの飲み物を提供したりと工夫して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていないが最低、一日一回は口腔ケアを促し、必要に応じ介助している。必要に応じて訪問歯科を利用し、義歯の調整・作成にもつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取り、排泄パターンを把握するよう努めている。 トイレでの排泄が出来るよう定期的に誘導、支援を行っている。	排泄記録で排泄パターンを把握して、立位の出来る方はトイレで排泄が出来るよう早目に誘導している。布パンツやリハパン+パッドの方も多く、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を理解し、排便の状況を把握、水分補給、運動を促している。 下剤だけではなくヨーグルト・牛乳・腹部マッサージあらゆるケアを実践している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の曜日を決め入浴を支援している。 利用者様のADLによって特殊浴槽を使用しているかたもいます。	週2回午前入浴を基本としている。背中を流しながら歌を歌ったり話をしたり、一対一になる機会と捉え、急かすことなくその方に応じた入浴タイムを支援している。デイサービスの特殊浴槽を使用して2人対応で入浴の方も増えて来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者の中での休息については自己決定によって行っている。 昼夜逆転を避けるよう日中に休息し過ぎないように、散歩や会話・作業を提供し支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者が服薬している内容がいつでも確認できるようファイルにまとめている。追加になった薬など常時経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に歌を唄ったり、散歩やドライブ、買い物に出掛ける、作品を作成等を行っている。 家事が出来る方には一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の利用者様によって大分変わってくるが、ドライブや散歩に出かける事が多い。	天気の良い日は一対一や一対二で20~30分程散歩している。途中あいさつをしたりなど地域の方に顔馴染みの関係になって来た。またドライブで紫陽花や紅葉見物などに出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週に1回以上、職員が買い物の代行をしている。ドライブがてら一緒にお買い物をする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる方の申し出により、ハガキ等を購入し、投函の支援をしている。利用者本人が電話のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適温であるようコントロールをしている。季節感を感じるよう花を飾る等している。共用空間はこまめに掃除を行っている。殺風景にならないように製作物等、壁に貼り、展示している	スエーデン建築を参考にした建物で、内部は白壁で天井の高い作りになっている。リビングには観葉植物やテレビ・利用者の作品など飾られている。廊下の突き当りにはソファが置かれ一人や少人数になりたいときのホットスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置位置を工夫し、独りで過ごしたり、利用者同士で過ごせるような場所を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものを使用し、生活している。	本棚や机・テレビ・筆筒など、使い慣れた物が配置されている。卒寿を迎えてフレステを配置し楽しまれている方、母校の理念を掲示されている方、植物が好きな方は植木鉢で窓辺がいっぱいなど各々好みの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置。 トイレのマークを設置しわかりやすくしている。 行動を抑制しないように、センサーを設置して見守りすることもある。		